



# た げ た 田 下 駄

時代：古墳時代（5世紀後半）

調査名：唐古・鍵遺跡 第59次調査

発見年：1996年

樹種：ヒノキ科

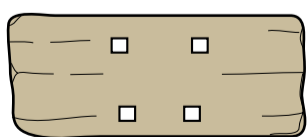
大きさ：①足板 全長40.4cm、幅10.5cm ②杵 全長46.2cm、幅38.5cm

春は田植えの季節ですね。そこで今回は、水田における農作業で使われた田下駄を紹介します。

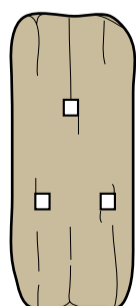
田下駄は、ぬかるんだ水田に体が沈まないようにするため、足に履いて使用する農具です。田植えや稲刈りで使うほか、土を均したり、肥料を踏み込んで土と混ぜ合わせたりする作業にも使われます。前者を田下駄、後者を大足おおあしと呼ぶ考え方もあります。湿田の開発が進んだ弥生時代後期～古墳時代初頭にかけて普及しました。

田下駄には、足板だけで使うものと、枝を丸くたわめた輪わかん標や、部材を四角く組んだ杵を足板に取りつけた杵つきものがあります。また、下図のように足に対して横長方向に履く「横長田下駄」と、縦長方向に履く「縦長田下駄」とがあります。唐古・鍵遺跡からみつかった田下駄は、古墳時代の「杵つき縦長田下駄」です。

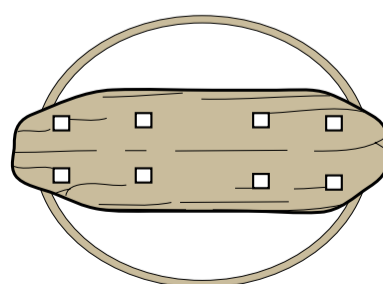
田下駄は、長い間この形を変えることなく、昔の人の知恵と工夫を後世に伝え、近世まで使われていました。



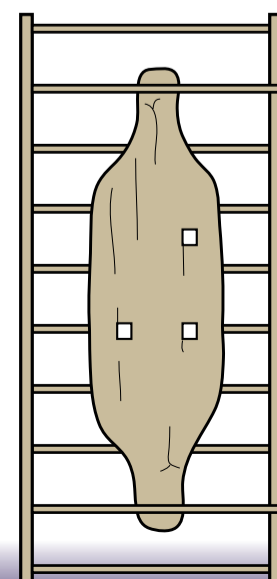
横長田下駄



縦長田下駄



輪標つき横長田下駄



杵つき縦長田下駄